

社会と共に

国内外の工場、事業所、本社で、地域の特性や文化にあった社会活動を展開しています

国内での取り組み

工場

■ 施設の開放

工場内の広場、グラウンド、体育館などを地元住民やクラブなどに開放しています。尾道工場の「恐竜公園」、新城工場の「タイヤランド」は地域の憩いの場として定着しています。

■ 教育活動の支援

地元の中・高校生の教育支援を目的に体験学習や講習会、環境教育の受け入れを行っています。2007年度は三島工場で地元中学校9校、計50名の体験学習を受け入れました。



恐竜公園（尾道工場）



中学生の体験学習（三島工場）



半世紀以上に渡り平塚市と共に歩む平塚製造所

神奈川県平塚市にある平塚製造所は、1952年に開設して以来、半世紀以上に渡り平塚市と共に歩んできました。毎年7月に開催される市の一大イベントである「七夕祭り」には横浜ゴムの笹飾りを出しています。また製造所周辺の清掃活動はじめ、社員寮にあるテニスコートの住民開放、ろう学校での救命装置AEDの操作方法の講習会開催など、多彩な活動を続けています。2008年7月には環境教育の普及を図る市民団体「地球っ子ひろば」の要請に応え、製造所内の植樹活動の説明会と再生して繰り返し使用する航空機用タイヤの製造見学会を実施しました。



2008年7月、平塚市の七夕祭りに出展した横浜ゴムの笹飾り（左）と、「地球っ子ひろば」の方々への植樹の説明（左上）と航空機用タイヤの製造見学会（右上）

「地球っ子ひろば」の小学生の感想より

- 植樹された苗木が森になるのが楽しみ。木陰ができて涼しくなると思う。
- 飛行機のタイヤは捨てないでゴムを張り替えて使用することを知って驚いた。
- 思ったよりも工場がとても綺麗に整備されていた。
- 飛行機のタイヤが色々とリサイクルされているのにびっくりした。
- 飛行機のタイヤが何回も使えることを友達に伝えたい。

■ 地域行事への参加

市町村主催のボランティア活動や環境活動への参加、地域行事の活性化に協力しています。三重工場や新城工場では、従業員が市町村主催の地域一斉清掃活動に参加しています。

■ 募金、献血、交通安全指導

三重、三島工場では新潟中越沖地震の被災者への支援募金を行いました。このほか各工場では、工場周辺の清掃、交通安全指導、献血などを自主的に行っています。

■ 地域コミュニケーション

工場見学会や地域懇談会などを定期的に行っています。また、地域交流イベント「ふれあい祭り」も毎年開催しています。

■ 環境・社会貢献に対する表彰

三重工場が「第6回日本コージェネレーションセンター賞」の産業用部門会長賞(2008年5月)、平塚製造所が市の「CO₂CO₂(コツコツ)特別賞」を受賞したほか、茨城工場が県のリサイクル優良事業所の認定を受けました。

本社

■ 災害被災者への寄付

新潟中越沖地震に500万円、中国四川省大地震に1,000万円を寄付しました。四川省大地震には中国子会社(750万円)、中国子会社社員(210万円)も寄付しました。

■ 環境啓発や学生教育の支援

環境啓発を目的とする片山右京氏による天ぷら油燃料車でのパリダカ参戦や、学生手作りのマシンでのルマン参戦(東海大学ルマンプロジェクト)に協賛しました。



ルマンに参戦した東海大学の手作りマシン(2008年6月)

■ グリーン電力証書システムを利用

2008年、「十勝24時間レース」の横浜ゴムガレージや「第2回LIVE ecoMOTION」で、環境負荷の少ないグリーン電力を使用しました。



従業員ボランティアが中心となって運営する「LIVE ecoMOTION」



2008年7月開催の第2回LIVE ecoMOTIONで演奏する人気アーティスト「MONKEY MAJIK」

「LIVE ecoMOTION」は2007年から開始した地球環境を訴えるコンサートです。入場料は500円で、全額WWF(世界自然保護基金)JAPANに寄付しています。会場整理、受付、募金の呼び掛けなど、イベントの運営は横浜ゴムの従業員が中心となって行っています。2008年7月開催の第2回目のコンサートは約1,800名の聴衆が集まり、入場料・募金は総額133万円にのびりました。



来場者の方々に募金をお願いする横浜ゴムの従業員ボランティア



地域一丸の植樹活動

「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクト

国内6生産拠点で約51,900本を植樹

「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトは、2008年8月までに国内6生産拠点で植樹祭を開催しました。植樹祭は横浜ゴム社員とその家族をはじめ、地域住民の皆さまや地元の行政・学校関係者の方々にもご参加いただき、地球温暖化防止に向けた地域一丸の活動として行われました。現在までの合計植樹本数は約51,900本。今後、海外生産拠点でも順次植樹を行い、国内外で合計約50万本の苗木を植えます。



「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトとは

地球温暖化防止を目的に、創立100周年を迎える2017年までに国内外の全生産拠点に「杜」を作るプロジェクトで、2007年にスタートしました。植物生態学者の宮脇昭氏(横浜国立大学名誉教授)の指導の下、その土地本来の土壌、気候にあった苗木を植えて、100年、1000年と続く「ふるさとの森」を創生します。また、自前の杜づくりを目指し、どんぐりの採取・育種、苗床づくり、植樹など全ての作業を横浜ゴムの従業員と地域住民の皆さまで行っています。

植樹実績

	参加人数	植樹本数
平塚製造所	3,500	27,000
三重工場	800	5,500
長野工場	480	2,500
尾道工場	310	4,300
三島工場	600	8,800
茨城工場	560	3,800
合計	6,250	51,900

今後の植樹予定拠点

- 新城工場
- ヨコハマタイヤ コーポレーション
- ヨコハマタイヤ フィリピン INC.
- 杭州横浜輪胎有限公司
- ヨコハマタイヤ マニュファクチャリング(タイ)
- ヨコハマタイヤ ベトナム INC.
- 蘇州横浜輪胎有限公司
- YHアメリカ INC.
- サスラバーカンパニー
- ヨコハマラバー(タイランド) カンパニー LTD.
- 横浜密封材料(杭州)有限公司
- 横浜胶管配件(杭州)有限公司
- 山東横浜橡胶工業制品有限公司
- 協機工業股份有限公司

写真1:プロジェクト初の植樹祭。3,500名が参加(平塚製造所) 2:植樹方法を説明する宮脇昭氏(右)と南雲忠信社長(中央)(平塚製造所) 3:愛・地球博マスコットキャラクターのモリゾー・キッコロも参加(三重工場) 4:人文字で「杜」を表現した記念撮影(三島工場) 5:植樹祭と併催された「ふれあい祭り」の太鼓演奏(長野工場) 6:親子で参加(平塚製造所) 7:難所である傾斜地での植樹(長野工場) 8:小さなお子さんも参加(三島工場)

海外グループ会社の取り組み

ヨコハマタイヤ フィリピン

工場敷地内の植樹に加え、政府関係者やNGO組織、軍隊の方々と共に行う植樹活動にも取り組んでいます。また、消防イベントやリサイクルイベントなど地域の活動に積極的に参加しています。旧式の器材、机や椅子に再利用できるドラムやパレット、木の鉢となる廃タイヤなどを地元の小学校やコミュニティに寄付する活動も継続しています。



工場内に植樹する従業員



消防イベントに参加した従業員

協機工業

工場のある工業団地内の会社へ呼びかけて土地の神様を祀る廟を建設し、お祭りの時に廟に通じる道路を清掃しています。また、2002年から地元の小学校で行われている環境教育に役立ててもらうため、年30,000円を寄付しています。



廟に至る道路の清掃

ヨコハマタイヤ コーポレーション

2008年3月から地域クリーンアップ・ボランティア活動に参加しており、すでに3回実施しました。また、2007年10月に工場内にアルミ缶のリサイクルボックスを設置し、月に約130ドルを貧困層の住宅建設のために寄付しています。



クリーンアップ・ボランティア活動

杭州横浜輪胎／横浜密封材料(杭州)

杭州横浜輪胎有限公司ではブロック1周、約2kmの清掃を定期的に行っています。同じ地域にある横浜密封材料(杭州)有限公司でも工場周辺の定期的な清掃活動を開始しました。



工場周辺の清掃(杭州横浜輪胎有限公司)

ヨコハマラバー(タイランド)

知的障害者やダウン症の子供の施設を訪問して交流を深めているほか、施設運営の寄付を行っています。また、工場の余剰資材や機械を地元の学校の教育に役立ててもらうために寄贈しています。



ダウン症の子供施設訪問の様様

YHアメリカ

「2008年地球の日」感謝祭に地元小学校の子供たちに合計1,500本の苗木を寄贈しました。子供たちはこの苗木を持ち帰り、記念樹として各家庭に植えました。



寄贈した苗木を抱える小学生

ヨコハマタイヤ マニファクチャリング(タイ)

地元の小学校やお寺へ寄付を継続的に実施しているほか、珊瑚礁保護のため廃タイヤの寄贈や子ども達に環境保護の大切さを理解させる絵本を制作しています。



子ども向けに制作した絵本